

11/26
～ 27

23年ぶりの交流

ホジルト郡訪問団来訪



姉妹都市の交流再開に向けて意見交換を行うため、モンゴル国ウブルハンガイ県ホジルト郡代表団 8 人が松浦市を訪れました。

旧鷹島町とホジルト郡は、平成 3 年に姉妹都市となり交流を深めていましたが、平成 13 年以降は両市郡との交流がストップしていました。

今回の訪問で、代表団は 26 日に鷹島町内の視察、27 日には市内の小学校、農業施設、商工業企業を見学し、市民との交流や本市の産業についての理解を深め、姉妹都市交流の再開への第一歩となりました。

11/22
(水)

V・ファーレン長崎が特別授業

V-DREAM



プロサッカークラブチーム V・ファーレン長崎が子どもたちの心身のすこやかな成長のために「夢を持つ素晴らしさ」「夢に向かって努力することの大切さ」を伝える特別授業が星鹿小学校、鷹島小学校、今福小学校の 3 校で行われました。

今福小学校には、クラブマスコットのヴィヴィくんと普及インストラクターの前田悠佑さんが訪れ、4～6 年生 53 人とだるまさんが転んだで体を動かした後、講演を行いました。

ま
ち
の
話
題

11/28
(火)

地域への想いがこもった募金を寄附

明治安田生命保険相互会社長崎支社 (川崎和朗支社長)



▲目録を手渡した同社濱田雅裕平戸営業所長 (写真左)

同社は、従業員からの募金と会社の拠出金を合わせた「私の地元応援募金」を市に寄附しました。

この寄附は地域住民の健康づくりや暮らしの充実に向けて、同社と協働した取り組みをしていくことを目的としたものです。

市は寄附金を活用し、会話が聞こえにくい人向けの対話支援機器などを購入し、集いの場や戸別訪問などで活用する予定です。

11/27
(木)

2年連続で全国大会出場

野林勇斗さん (御厨小学校 5年)



野林さんが第 32 回全国小学生バドミントン選手権大会 (12 月 22～26 日、沖縄県那覇市開催) 男子シングルス 5 年生以下、都道府県対抗団体戦への出場報告に市役所を訪れました。

野林さんは鹿町ジュニアに所属し、昨年の大会は男子ダブルス小学 4 年生以下の部でベスト 16 入りを果たしています。

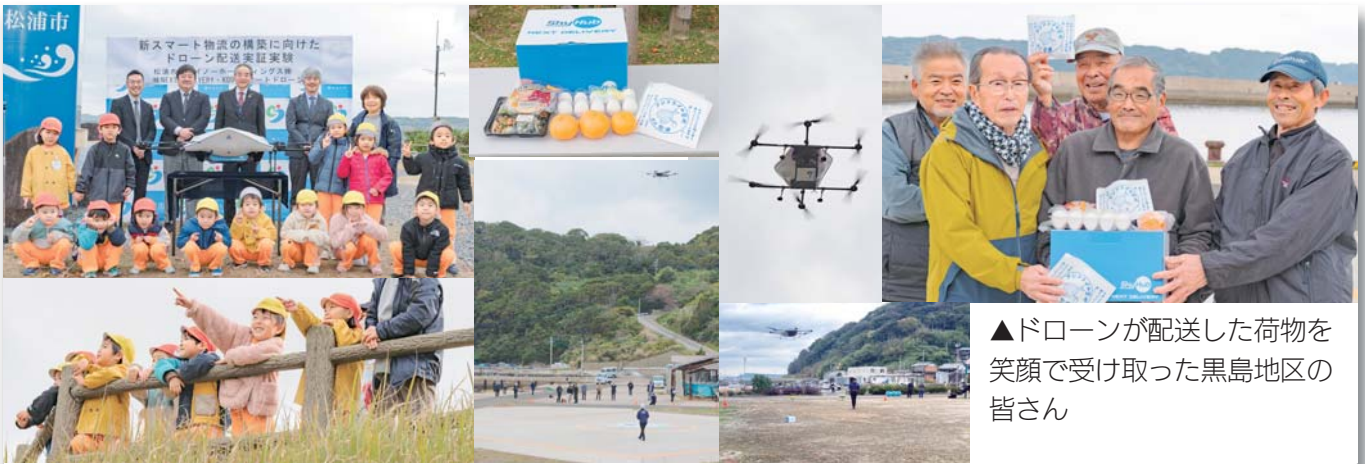
野林さんは「全国大会で勝てるように練習を頑張ってきた。その成果を発揮したい」と意気込みを語ってくれました。

11/29
(水)

ドローンを使って島の皆さんへ荷物をお届け

「離島におけるドローン配送」の実証実験

ま
ち
の
話
題



▲ドローンが配送した荷物を笑顔で受け取った黒島地区の皆さん

市は共同事業者と鷹島町において「離島におけるドローン配送」の実証実験を実施しました。

今回は架橋離島である鷹島を中心に、有事の際の物資輸送などを想定して、道の駅鷹ら島から船唐津港の往復、道の駅鷹ら島から黒島港へ配送するルートで3回の実証飛行を行いました。

船唐津港、黒島港には「卵、菓子パン、お惣菜、ミカン、アジフライ」（重さ約2キログラム）、道の駅鷹ら島で見学した鷹島保育園の園児の皆さ

んにはお菓子が届けられました。

荷物を受け取った黒島地区の皆さんは「普段日持ちがしない食品は買うことができない。弁当や卵が届くようになれば住民はとても嬉しいと思う」と話しました。

市は今後、実証実験の成果を踏まえ、共同配送体制の構築、ドローンを活用した離島や遠隔地への買い物代行サービスなどの活用に向けて取り組む予定です。

12/1
～2

挑戦することの大切さ

スポーツ講演会 i n 福島



松浦市スポーツ協会（高尾誠会長）が主催する同講演会が福島中学校体育館で開催され、市民ら延べ約300人が参加しました。

今回の講演会では、元プロバレーボール選手で佐世保市出身の増田純平さんが「挑戦することの大切さ」と題して自身の経験をお話して、挑み続けることの意味を講演しました。

また、翌日には小中学生を対象に実技指導が行われ、子どもたちは熱い指導を真剣に受けていました。

11/30
(木)

小中学生が鷹島の未来について語る

令和5年度 鷹島小・中学校「みらい会議」



地域住民との交流を通して故郷への思いを深める機会を作ろうと鷹島小中学校運営協議会（木山智明会長）が開催し、2回目を迎えるこの会議。

今回は「鷹島の未来のために、何ができるだろうか。」と題し、小学5年生から中学生、協議会委員や当日参観の保護者ら約90人が12グループに分かれて島の未来について語りました。

参加した委員・保護者は「子どもたちが地元の未来について真剣に考えていることが伝わり、私たちも自分ごととして考える機会になった」と話し、参加者の思いが共有された会議となりました。